

View アレルギーは従来検査法に比べて精密性に優れています。

再現性

検体 クラス判定の異なる2種類の陽性血清
(低：クラス2または3、高：クラス3以上)

方法 両法共通8項目について、両法で3重測定を3回連続で実施し、変動係数 (CV%) を算出

結果 CV%は、従来検査法では12.5~29.1%、Viewアレルギーでは4.68 ~11.8%であり、Viewアレルギーの方が精密性に優れた結果であった
※変動係数CV%：値が低いほどバラツキが少なく精度が高いことを示す

アレルギー項目	従来検査法		View アレルギー	
	低濃度	高濃度	低濃度	高濃度
コナノヤケヒョウヒダゴ	15.0	13.8	5.93	8.07
ネコ皮膚	21.7	23.0	4.68	7.43
イヌ皮膚	29.1	19.1	9.40	9.03
カンジダ	14.6	23.7	11.0	11.8
スギ	21.3	19.2	7.47	7.84
卵白	16.8	12.5	10.9	6.58
ミルク	16.7	**	8.63	5.75
小麦	22.7	24.7	8.04	9.50

n = 9 ** 測定上限以上となり演算除外

多重測定のバラツキの比較

検体 25検体

方法 両法共通30項目について、両法で3重測定し、最小値および最大値のクラスを比較

結果 クラス一致率は、従来検査法が78.5%、Viewアレルギーが94.0%であった。従来検査法では、特に低濃度域でクラスの判定にバラツキが認められた。

最大値	従来検査法						View アレルギー					
	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3	4	5
6						3						1
5				1	11	7					6	5
4				11	27					4	24	
3	2		18	72					10	74		
2	11	28	86				9	94				
1	76	40					15	51				
0	335						453					
	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3	4	5
	最小値						最小値					

従来検査法 クラス一致率：78.5% **View アレルギー** クラス一致率：94.0%

従来検査法と View アレルギーの相関性

検体 41検体

方法 両法共通30項目について、両法で1回測定し、クラスの相関性を検討

結果 陽性一致率、陰性一致率、判定一致率、クラス一致率を右に示した。特に食物系で陽性一致率が低い結果であった。不一致の原因は、測定原理やアレルギー試薬などの違いに加え、検査キットの再現性等の基礎的性能も関係していると考えられた。

View アレルギー	従来検査法						View アレルギー					
	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3	4	5
6						1						
5				1	1	1						
4				10	12	3				1		
3		2	10	26	21	6	1	3	11	5	4	2
2	9	11	40	24	2		6	3	10	14	2	
1	13	8	9				8	5	15	7		
0	313	19	7				465	58	33	3		
	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3	4	5
	従来検査法						従来検査法					

吸入系アレルギー (共通 14 項目)	陽性一致率：92.0% 陰性一致率：93.4% 判定一致率：92.9% クラス一致率：70.2%
食物系アレルギー (共通 16 項目)	陽性一致率：47.3% 陰性一致率：97.1% 判定一致率：87.8% クラス一致率：75.0%

京浜メディカルグループ
KML 株式会社 京浜予防医学研究所
JM 株式会社 ジャパンメディカル

©2016 Thermo Fisher Scientific Inc. All rights reserved. All trademarks are the property of Thermo Fisher Scientific and its subsidiaries unless otherwise specified. Printed in Japan.1608-5E-756-5

サーモフィッシャーダイアグノスティクス株式会社
 〒110-0015 東京都台東区東上野4-24-11 NBF上野ビル9F

0120-489-211

info-jp.idd@thermofisher.com